

○計画期間:令和元年7月～令和7年3月(5年9か月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点(令和2年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、高松市中心市街地活性化基本計画について、令和元年6月に国の認定を受け、「来まい・住まい・楽しみまい-コンパクト・エコシティ たかまつ-」をコンセプトに、計画に掲載された全48事業が活性化に向けた相乗効果をもたらすよう、官民が連携し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

計画に掲載された全48事業の進捗状況は、完了している事業はなく、37事業が継続実施中、11事業が未完了（うち1事業が未着手）となっている。

令和元年度は、3年に1回開催されている「瀬戸内国際芸術祭」の開催年に当たり、会期計107日間で、国内外から過去最高の約118万人の来場者数を記録した。また、芸術祭県内連携事業の一環として、「SHIP'S CAT+kame3 2019 祝祭～おいでまい 高松丸亀町商店街」が開催され、香川大学生を始め地元アーティストが、商店街をアート・音楽・食をテーマにしたスタンプラリーやワークショップなど各種イベントを実施したが、これが芸術祭の会場の一つであるサンポートエリアから商店街への回遊を生み、歩行者通行量が増加した一因と考えられる。

また、中心市街地南部に位置する南部3町（常磐町、南新町、田町）においては、令和元年9月、南部3町ドーム下にうどん県PR団であるポケモン「ヤドン」のデザインマンホールが設置され、多くのポケモンファンが訪れるなど、南部3町への集客につながっている。今後、一時的な集客ではなく、商店街独自のイベントの情報発信等による、リピーターの定着や各商店街の特色を生かした来街者の増加につなげていく必要があり、関係者によるワーキンググループを設置し、各商店街の課題や南部3町及び亀井町が交差する4町パティオの広場の有効活用等、南部商店街の活性化に向け、協議を進めている。

現在、計画開始から9か月が経過しているが、基幹事業として位置づけている再開発事業等が未実施となっているため、直接的な効果は表れていない。定期開催されている「瀬戸内国際芸術祭」で来街した国内外の観光客が、中央商店街や観光施設へ回遊することで、歩行者通行量や観光施設入込客数の増加などのにぎわい創出につながっているが、新型コロナウイルスの感染拡大による外国人観光客の大幅減や消費の落ち込みにより、今後、厳しい状況が続くと想定されており、中心市街地の活性化や賑わいが創出できるよう、官民一体となって取り組んでいく必要がある。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

**(基準日:令和2年1月1日)**

(中心市街地 地域)	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)	令和6年度 (6年目)
人口	20,629人	20,373人	—	—	—	—	—
人口増減数	△106人	△256人	—	—	—	—	—
自然増減数	△194人	△209	—	—	—	—	—
社会増減数	88人	△47	—	—	—	—	—
転入者数	1,036人	984	—	—	—	—	—

**2. 令和元年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

第3期基本計画の認定から、9か月が経過した令和元年度の取組状況は、全48事業のうち、37事業が継続実施中、11事業が未完了(うち1事業が未着手)となっており、基幹事業として位置づけられている再開発事業等が未実施となっているため、直接的な効果は表れていない。

目標指標の達成状況からみると、3年に1回開催の瀬戸内国際芸術祭や芸術祭県内連携事業の実施もあいまって、国内外からの来場者数の増加や商店街への回遊が生まれたことから、歩行者通行量の増加、主要観光施設入込客数に繋がり、にぎわい創出に一定の効果があった。

一方、中心市街地の社会動態の増加については、区域内におけるマンション建設が未完了であり、大幅な人口増につながらなかったため、現時点での成果はまだ見えにくい状況にある。

第3期計画の実効性を高めるために、課題解決に向けた検討、進捗管理を行うことを目的としたワーキンググループを、南部3町商店街活性化をテーマに設置しており、南部3町及び亀井町が交差する4町パティオ広場の有効活用等、南部商店街の活性化に向け、更なる協議を進め、事業内容を充実させる必要がある。

また、歩行者等通行量の指標においては、瀬戸内国際芸術祭による通行量増加の要素はあるものの、目標値と最新値との間で大幅な乖離が見られるため、今後の推移を見ながら数値の分析を検討されたい。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるインバウンドの大幅減や消費の落ち込み等により、今後、厳しい状況が続くと想定されるが、収束状況を見極めつつ、官民協働のもと中核事業を中心に基本計画の積極的な推進を行い、早期に目標指標が達成され、更なる中心市街地の活性化が図られるよう取り組んでもらいたい。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
サンポートエリアにおける高次(広域)都市サービス機能の充実による誘客力の向上	中心市街地内の主要観光施設年間入込客数	2,744 千人 (H30)	2,890 千人 (R6)	2,894 千人 (R1)	A	—	①
中心市街地の魅力発信による回遊性の向上	歩行者等通行量	92,639 人 (H29)	97,721 人 (R6)	134,083 人 (R1)	A	—	①
	新規出店数	216 店舗 (H26~H30 累計)	271 店舗 (R1.7~R7.3)	18 店舗 (R1.12 月) 充足率 7%	C	—	②
拠点間交流と住環境の整備による地域価値の向上	中心市街地の社会動態	886 人 (H26~H30 累計)	1,373 人 (R1.7~R7.3)	△190 人 (R1.7.1~ R2.4.1) 充足率-14%	C	—	②
	ことでん3駅の乗降客	31,751 人 (H29)	32,057 人 (R6)	33,762 人 (R1)	A	—	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値達成、C : 基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### ① 「中心市街地内の主要観光施設年間入込客数」について

瀬戸内国際芸術祭 2019 の効果もあり、芸術祭の会場となったサンポートエリアにある高松シンボルタワー・玉藻公園の入場者数が前年比 114% となり、目標を達成した。

令和2年1月末頃からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、国際線や国内線が運休している状況から、国内外の人の移動が大幅に減少しているほか、各種イベント等の自粛も相次いでおり、次年度は厳しい状況が見込まれる。

## ② 「歩行者等通行量」について

歩行者等通行量は、令和元年10月から、カメラによる計測を行っており、常時計測が可能となった。昨年は、「瀬戸内国際芸術祭 2019」の開催もあり、目標値を達成した。

一方で、令和2年1月末頃からの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、国際線運休による外国人観光客の減少のほか、外出自粛による通行量への影響が見え始めている。

## ③ 「新規出店数」について

高松市中央商店街空き店舗活用事業による効果や近年のタピオカブームを受けた出店などにより、新規出店全18店舗中6店舗が飲食店となっている。

今後は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、国際線運休による外国人観光客の減少や夜間営業を行う飲食店への客足減少によって、厳しい経営状況となる店舗の増加が予測されるとともに、外出自粛による消費の減少や景気の悪化により、新規出店数の増加については、目標達成が難しい状況にある。

## ④ 「中心市街地の社会動態」について

社会動態については、第2期中心市街地活性化基本計画の計画期間のトレンドを参考に、目標設定をしたものであるが、令和元年度の社会動態は、区域内でのマンション建設がなく、結果として、転出超過による社会動態減少となっている。

次年度以降、区域内では、マンションの建設予定はあるものの、転住できる物件戸数に限りがあることや、マンションよりもホテルの建設計画が多く、第2期計画期間ほどのマンション建設が見込めないことから、今期における社会動態の増加については、目標達成が難しい状況にある。

## ⑤ 「ことでん3駅の乗降客」について

通勤通学による定期利用を除く乗降客数が前年比 105%となったが、瀬戸内国際芸術祭 2019 の開催によって観光客利用が増加したものと考えられる。また、定期利用においては、高松築港駅で前年より約 200 人、瓦町駅では約 350 人増加し、瓦町駅周辺への企業進出やサンポート地区で合同庁舎が完成するなど、通勤利用が増加したため、目標値を達成した。

今後、鉄道の乗降客については、令和2年3月から実施されている、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための小中学校、高校などの休校や、企業でのテレワーク導入による定期利用の減少に加え、観光客の減少も重なり、大幅な利用減が予測される。

## 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

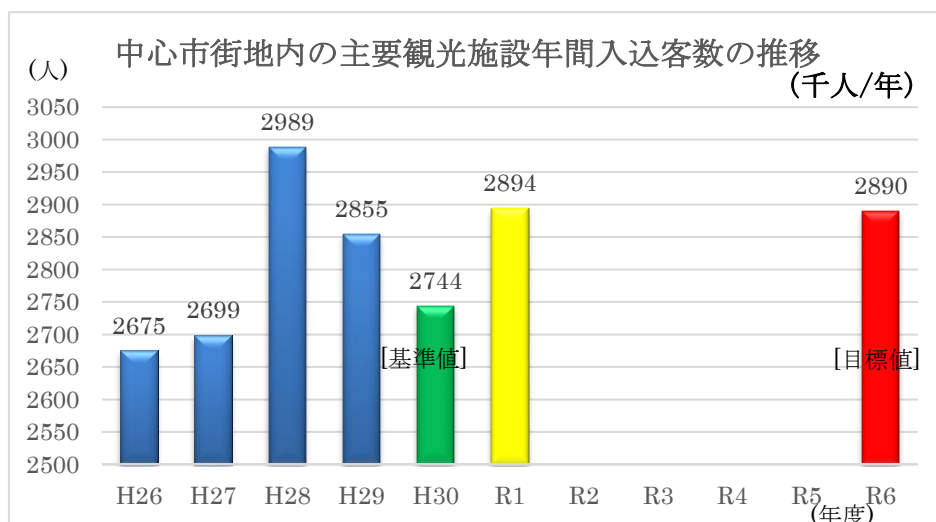
前回フォローアップは実施していない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地内の主要観光施設年間入込客数」

※目標設定の考え方基本計画 P94～P97 参照

##### ●調査結果の推移



年	千人/年
H30	2,744 (基準年値)
R1	2,894
R2	—
R3	—
R4	—
R5	—
R6	2,890 (目標値)

\*高松市美術館は H27. 1. 14～H28. 3. 25 の間、改修工事のため長期休館

※調査方法：各施設への聞き取り

※調査月：各年 1 月～12 月の施設利用者数

※調査主体：高松市

※調査対象：主要観光施設 4 箇所（高松シンボルタワー、玉藻公園、高松市美術館、香川県立ミュージアム）で計測

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ① 新県立体育館整備事業（香川県）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【未】
事業概要	競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設としての機能に加え、コンサートや MICE など、多くの集客交流が見込まれるイベントが開催できる交流推進施設としての機能を備えた体育館を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	工事着手が令和3年度のため未着手。
事業の今後について	令和3～5年度建設工事予定。

###### ② 高松駅周辺開発事業（四国旅客鉄道株式会社）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【未】
事業概要	交通結節点である高松駅周辺において集客機能のあるにぎわい施設を整備し、利便機能の拡充を図ることで香川県内外からの広域的な誘客を図る。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	建設予定地既存建物撤去完了、関係法令・規定等の確認を実施。
事業の今後について	ボリュームの確定及び周辺施設等の整備方針確定次第、基本設計に着手する予定。

③ ART SETOUCHI (瀬戸内国際芸術祭) (瀬戸内国際芸術祭実行委員会)

事業実施期間	平成22年度～【実施中】 [認定基本計画:令和元年度～令和6年度]
事業概要	3年1回の現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」のほか、芸術祭開催年以外でイベント等により瀬戸内海の魅力発信・誘客の活動を実施するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国際文化芸術発信拠点形成事業(文部科学省)(平成30年度～)
事業効果又は進捗状況	「瀬戸内国際芸術祭2019」を開催し、国内外から約118万人の来場者があった。
事業の今後について	引き続き、これまでに蓄積されたアートの資源を活用したアートイベント等を実施する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和元年度は「瀬戸内国際芸術祭 2019」の開催年ということもあり、国内外から多くの観光客や関係者が訪れたため、区域内の主要観光施設の利用が伸びている。

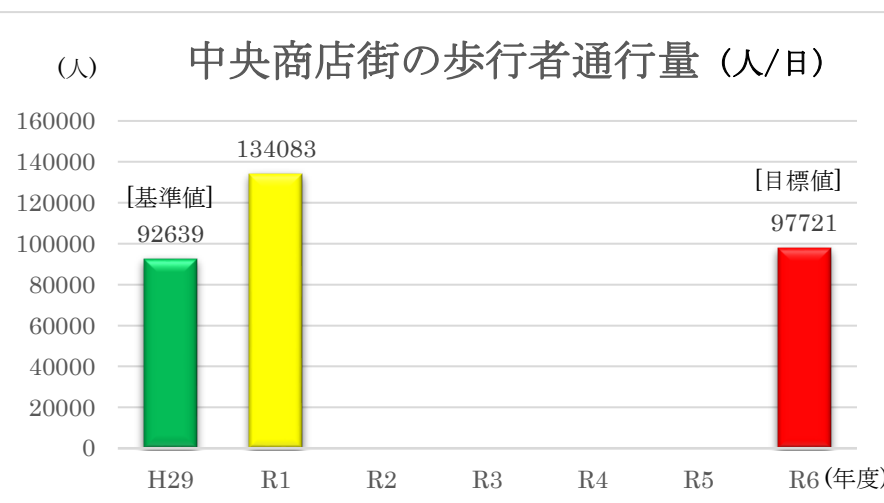
令和2年1月末頃からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、国際線や国内線が運休している状況から、国内外の人の移動が大幅に減少しているほか、各種イベント等の自粛も相次ぎ、次年度は厳しい状況が見込まれる。

新型コロナウイルス感染拡大の収束状況を見極めつつ、来街者の増加、主要観光施設の利用客数の増加を図るため、観光施設の情報発信やART SETOUCHIやサンポート高松トリアスロン大会開催事業などの魅力ある催し物の実施をするなど、ソフト施策も計画していることから、効果的なイベントの開催などについて施設管理者へ働きかけていきたい。

今後、サンポート地区において、新県立体育館整備事業やJR高松駅周辺開発事業が計画されており、これらの事業の実施によって、魅力ある商業空間の創出や、大規模イベント等により、広域からの誘客が見込まれることから、関係機関と連携しながら積極的に推進していきたい。

「中央商店街における歩行者等通行量」※目標設定の考え方基本計画 P98～104 参照

●調査結果の推移



年	人/日
H29	92,639 (基準年値)
R1	134,083
R2	—
R3	—
R4	—
R5	—
R6	97,721 (目標値)

\*R1 年度は下半期よりカメラ画像解析による計測を開始したため、下半期数値の平均としている。

H30 年のデータがないため、H29 を基準値とする。

※調査方法：中央商店街の 15 地点で自動計測（カメラ画像解析）を実施

※調査月：各年度 4 月 1 日～3 月 31 日

※調査主体：高松市・高松中央商店街振興組合連合会

※調査対象：毎日（10 時から 19 時まで）の中央商店街 15 地点の歩行者（自転車を含む）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ① 新県立体育館整備事業【再掲】P 5 参照
- ② 高松丸亀町子育て支援施設整備事業（高松まちづくり株式会社・NPO 法人わははネット）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【未】
事業概要	再開発施設内に子育て支援施設を整備し、NPO 法人による運営を行うことで子育て世代の女性が子どもを産みやすく、働きやすい環境を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和3年度）
事業効果又は進捗状況	NPO 法人及び関係機関と子育て支援施設の施設計画及び運営に関して協議を進めている。
事業の今後について	NPO 法人及び関係機関と子育て支援施設の施設内レイアウト及び運営に関して引き続き協議を進め、計画を具体化させる予定である。

③ 大工町ものづくり育成店舗整備事業（高松まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【未】
事業概要	再開発施設内に香川県のものづくりを担うデザイナーやクリエイターが集う施設を整備し、県外や海外から訪れる観光客に、香川のものづくりの体験や伝統産業の逸品などを提供することで、新たな魅力を創出し、商店街への来街意欲を促進させるもの。
国の支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定（経済産業省）（令和3年度） 地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和3年度）
事業効果又は進捗状況	施設計画及び運営に関して、関係者と協議を進めている。
事業の今後について	施設内レイアウト及び運営に関して、引き続き関係者と協議を進め、計画を具体化させる予定である。

④ 高松市創業支援事業（高松市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】 [認定基本計画:令和元年度～令和6年度]
事業概要	高松商工会議所や金融機関等の地域の創業支援事業者と連携して創業者や創業希望者を支援するもの。
国の支援措置名及び支援期間	創業支援事業者補助金（経済産業省）（平成30年度～）
事業効果又は進捗状況	平成31年4月及び令和元年9月に、高松商工会議所がたかまつ創業塾、8月に高松信用金庫がキャリスタ塾、7月及び11月に、日本政策金融公庫四国創業支援センターが創業相談ウィーク、並びに11月に、富士ホールディングがクラウドファンディング活用セミナーを、それぞれ本市と共催で開催し、創業件数の増加や創業機運の醸成を図った。
今後事業について	引き続き、創業支援等事業者との連携により、創業塾やセミナー等を開催し、創業希望者等の支援に取り組む。なお、高松市創業支援等事業計画の計画期間が令和2年9月末であることから、期間の延長を行う予定である。



⑤ 南部3町商店街活性化拠点施設マチカドプラザ事業（株式会社高松南部3町商店街プロジェクト）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】 [認定基本計画:令和元年度～令和6年度]
事業概要	南部3町商店街の活性化拠点施設であるマチカドプラザにおいて、情報カウンターやサイネージによる商店街の情報発信、各種情報発信ツールによる各店舗情報の提供などを行い、隣接している集いの場として4町パティオの有効活用を検討するなど、利用促進と回遊性を高めるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	商店街各店舗とのコミュニケーションを重視し、情報を収集・発信。店舗間や外部との連携を図り、商店街好きのOLを主役としたストーリー仕立てのフリーペーパーの制作や巨大フォトクーポンを設置しSNSで投稿した画面を見せると特典が受けられるなど、注目度が高いPR企画の実施。
今後の事業について	引き続き、情報収集・発信を継続する。 長期的な運営のためには、収益性が課題である。

⑥ 高松市中央商店街空き店舗活用事業（高松市）

事業実施期間	平成24年度～【実施中】 [認定基本計画:令和元年度～令和6年度]
事業概要	中央商店街の区域に所在する空き店舗に新たに出店する事業者に対し、改装費の一部を補助するもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	平成27年12月から、高松中央商店街へ新規出店する者に対して、直接改装費の一部を助成する新規出店補助制度を開始し、継続して実施している。令和元年度は、10件の空き店舗への出店に対し、交付決定を行っている。（令和2年3月19日時点）
今後の事業について	引き続き、高松中央商店街の空き店舗を対象として、新規出店補助制度の周知啓発を進め、空き店舗の解消が進展するよう継続して事業を実施する。

⑦ 高松丸亀町商店街情報発信事業（高松丸亀町商店街振興組合）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】 [認定基本計画:令和元年度～令和6年度]
事業概要	外国人観光客などの来訪者に対して商店街の店舗情報やイベント

	情報などローカルな情報に加え、中央商店街全体の情報や広域的な観光情報等を提供し、利用促進と回遊性の向上を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	平成30年度に高松丸亀町商店街インフォメーションセンターを開設した。
今後の事業について	免税については、国税局の規制などにより、事実上機能していない。

⑧ 高松駅周辺開発事業【再掲】 P 5 参照

⑨ ART SETOUCHI（瀬戸内国際芸術祭）【再掲】 P 6 参照

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

丸亀町商店街においては、自転車走行が禁止されているにも関わらず、平日・休日ともに、他の商店街より多くの人が行き交っており、にぎわいを見せている。また、同商店街では、**高松丸亀町商店街情報発信事業**において、近年の外国人観光客の増加に対応するため、インフォメーションセンターを設置し、多言語での情報発信を行っており、周辺商店街も含め、多くの外国人の通行が見られている。

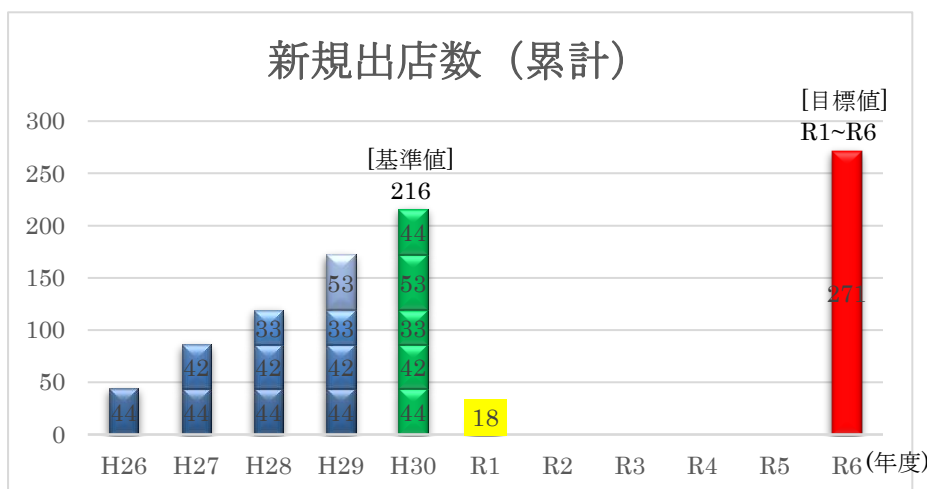
南部3町(南新町・常盤町・田町)においては、**南部3町商店街活性化拠点施設マチカドプラザ事業の一環**として「#デリシャス瓦町」が企画され、ジェラート3店舗をめぐるスタンプラリーを実施するなど、商店街への再来や回遊性を促す取り組みを随時行うことで、通行量の増加につなげている。

一方で、令和2年1月末頃からの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、国際線運休による外国人観光客の減少のほか、外出自粛による通行量への影響が見え始めている。

次年度以降については、丸亀町商店街において、市街地再開発事業で予定している子育て支援施設や大工町ものづくり育成店舗等の整備が順調に実施されることによって、集客の拡大が期待できることから、更に、通行量の増加につなげたい。

「新規出店数」 ※目標設定の考え方基本計画 P105～P106 参照

●調査結果の推移



年	店舗数（累計）
H30	216 (H26.4~H31.3) (基準値)
R1	18 (充足率 7%)
R2	
R3	
R4	
R5	
R6	271 (R1.7~R7.3) (目標値)

※調査方法：年 2 回、中央商店街店舗立地動向調査を実施

※調査月：6 月、12 月（取りまとめは、7 月及び 1 月）

※調査主体：高松市・高松商工会議所

※調査対象：高松中央商店街を構成する 8 商店街振興組合

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ① 南部 3 町商店街活性化拠点施設マチカドプラザ事業【再掲】 P 9 参照
- ② 高松市中央商店街空き店舗活用事業【再掲】 P 9 参照
- ③ 商店街情報発信事業【再掲】 P 9 参照
- ④ 大工町ものづくり育成店舗整備事業【再掲】 P 8 参照
- ⑤ 高松市創業支援等事業【再掲】 P 8 参照

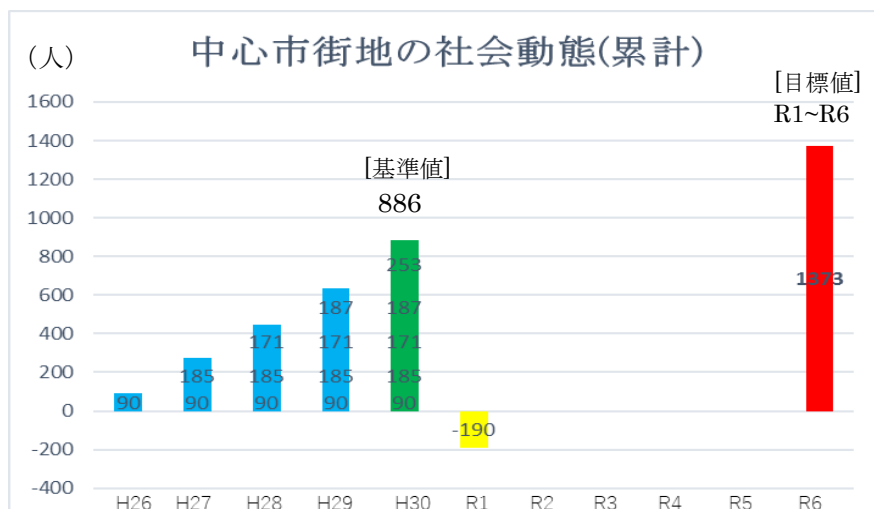
●目標達成の見通し及び今後の対策

前期計画では、高松市中央商店街空き店舗活用事業や商店街情報発信事業による効果に加え、社会動態の増加や企業等の移転が進んだことを背景に多くの新規出店が見られた。令和元年度は、継続して事業が行われたことにより新規出店数は 18 店舗となった。今後、大工町ものづくり育成店舗整備事業の完成や南部3町商店街活性化拠点施設マチカドプラザ事業による誘客効果のほか、各商店街での工夫を凝らしたイベントの開催などにより、歩行者通行量も増加傾向であり、新規出店が増えることが見込まれる。

令和2年1月末頃からの新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う、夜間営業を行う飲食店への客足減少や、国際線の運休による外国人観光客の減少により、廃業する店舗の増加が予測される。今後、新型コロナウイルス感染拡大の収束とともに、経済が回復する中で新規出店につながる施策を効果的に実施することで目標達成に近づきたい。

「中心市街地の社会動態」 ※目標設定の考え方基本計画 P107～109 参照

●調査結果の推移



年	人 (累計)
H30	886 (H26.4~H31.3) (基準値)
R1	△190 (充足率-14%)
R2	—
R3	—
R4	—
R5	—
R6	1,373 (R1.7~R7.3) (目標値)

※調査方法：中心市街地内における住民基本台帳登録人口

※調査月：4月1日時点調査、同月取りまとめ

R1年度は7月1日～R2年4月1日

※調査主体：高松市

※調査対象：中心市街地内の居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 高松市大工町・磨屋町地区第一種市街地再開発事業(大工町・磨屋町地区市街地再開発組合)

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【未】
事業概要	中央商店街の一つである丸亀町商店街C街区の東西にある大工町・磨屋町地区で都市型住宅、商業施設、立体駐車場を備えた再開発施設を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省)(令和2年度～令和5年度)
事業効果又は進捗状況	社会資本整備総合交付金を活用し、再開発組合において、実施設計及び権利変換計画の作成を進めている。 R2.5に権利変換計画認可を受けることを目指し、調整を進めている。
事業の今後について	認可を受けた権利変換計画に基づき、再開発組合が、大工町街区の地権者に対し、建物等の補償を行い、既存建物解体工事及び本体工事に順次着手する予定である。

② 高松市常磐町地区優良建築物等整備事業(阪急阪神不動産株式会社・四国旅客鉄道株式会社)

事業実施期間	平成31年度～令和4年度【未】
事業概要	中央商店街の一つである常磐町商店街のジャスコ跡地において、医療施設、子育て支援施設、共同住宅を整備するもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業)(国土交通省)(平成31年度～令和3年度)
事業効果又は進捗状況	社会資本整備総合交付金を活用し、実施設計を進めている。R2.3に既存建物解体工事に着手する予定である。
事業の今後について	引き続き、既存建物解体工事を進め、本体工事に順次着手する予定である。

③ フラット35活用事業(高松市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	高松市立地適正化計画で定める中心市街地を包含する居住誘導区域の外から、区域内へ住み替えた世帯に、住宅の建築・購入等費用の一部補助(新築20万円・中古15万円)及び住宅金融支援機構と提携し、住宅ローンフラット35Sまたはフラット35リノベの金利の低減(当初5年間△0.25%等)を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果又は進捗状況	R1年10月から事業開始し、実績は3件(中心市街地外)である。
事業の今後について	次年度も継続的な周知啓発を行い、より多くの方に制度を利用してもらえよう努めていく。また、次年度は中心市街地にマンション建設の予定が複数あり、中心市街地の人口増につながる見込みである。

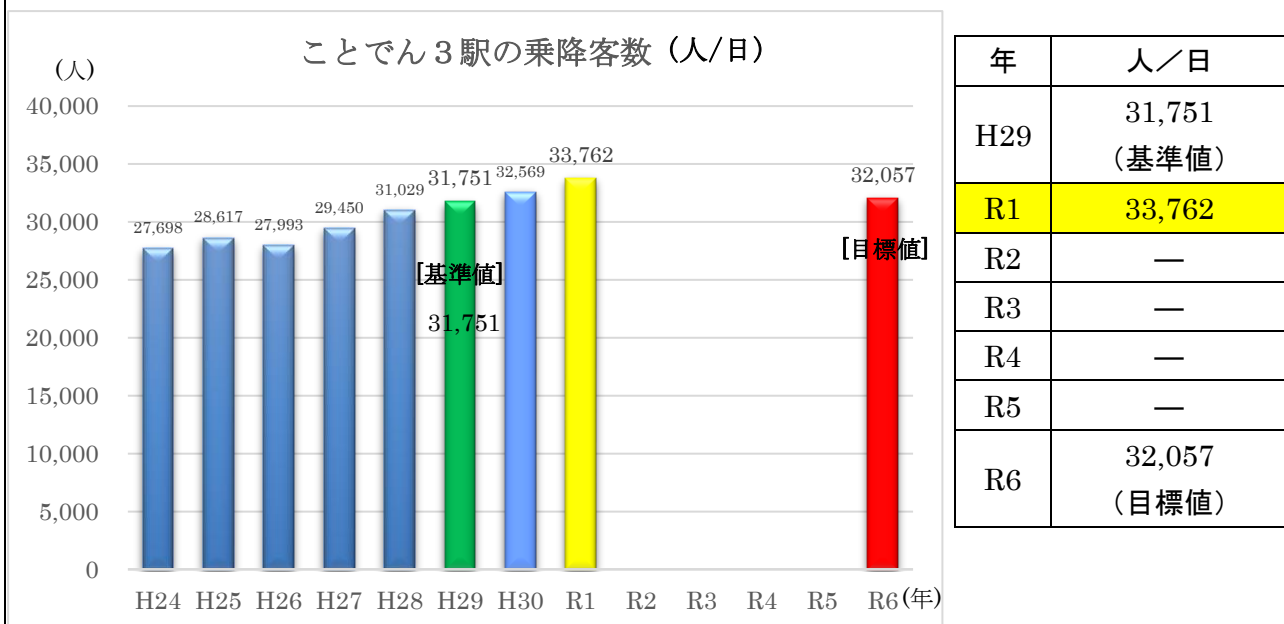
●目標達成の見通し及び今後の対策

令和元年度は中心市街地において、民間のマンション建設等、大幅な人口増につながる要因がなく、結果、転出超過による社会動態減少となっている。

次年度においては、2棟の分譲マンションのしゅん工が予定されているほか、合わせて、現在実施しているフラット35活用事業を市の広報誌、ケーブルテレビ、SNSなどを利用し、幅広く周知啓発することで居住の誘導を図るとともに、新たに空き家等の既存ストックの流通を促進する住宅施策として、既存住宅状況調査や既存住宅売買瑕疵保険の経費の一部補助制度を展開するなど、中心市街地における人口増につなげたい。

「(参考指標) ことでん3駅の乗降客数」※目標設定の考え方基本計画 P110～112 参照

●調査結果の推移



※調査方法：高松琴平電気鉄道株式会社へ聞き取り

※調査月：毎年1月1日～12月31日 (H24～H30は毎年4月1日～翌年3月31日で集計)

※調査主体：高松琴平電気鉄道株式会社

※調査対象：ことでん3駅(高松築港、片原町、瓦町)の乗降客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ① 高松丸亀町子育て支援施設整備事業【再掲】P7参照
- ② 新県立体育館整備事業【再掲】P5参照

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成15年に高松シンボルトワー、18年には合同庁舎北館、29年には合同庁舎南館が完成したことにより、国の機関や企業の移転が進んだことで定期利用においては、高松築港駅で前年より約200人、瓦町駅では約350人増加している。また、22年に瀬戸内国際芸術祭が初めて開催され、国際的な芸術都市としての知名度が上がるにつれ観光客が増加し、ことでんの利用客数も伸びている。令和元年は、通勤通学による定期利用を除く乗降客数が前年比105%となったが、瀬戸内国際芸術祭2019の開催によって観光客利用が増加したものと考えており、目標値を達成した。

令和2年は、3月から5月まで実施された、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための小中学校、高校などの休校や、企業でのテレワーク導入による定期利用の減少に加え、観光客の減少も重なり、大幅な利用減が予測される。

今後、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、新県立体育館整備事業や子育て支援施設整備事業が順調に実施され、施設が完成することに加え、魅力的なイベント等のソフト面を充実させることや街なか居住の推進により、中心市街地人口が増えることで人々が移動する際の公共交通利用が見込まれることにより、乗降客数が増加することを期待したい。